

自己評価票

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営			
1. 理念と共有			
1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	地域密着型サービスの役割を理解しており、ホーム内での理念の作成、また町内会の新年会、いきいきサロン、花見へ参加、出掛けるなど地域との関わりを意識しながら外出支援を行うよう努めている。	
2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	管理者、職員は理念の実践に向けて、研修やホーム内に理念の掲示をし、理念の共有に日々取り組んでいる。職員も日々の生活の中で常に確認しあう事を大切にしている。	
3	○家族や地域への理念の浸透 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえよう取り組んでいる	入居者や家族の方が見やすいようホール・スタッフルーム内に掲示している。また、地域の会合、家族会での説明、入居案内説明文書への明示を行っている。また、見学者へも理念の説明をおこなっている。	○ 今後も運営推進会議、家族会、寸劇等の活動を通して理解を深めていきたい。
2. 地域との支えあい			
4	○隣近所、地域とのつきあい及び地域貢献 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけあったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるよう努めている。事業所は地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている。また、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる。担当職員はキャラバンメイトになるなど、地域の認知症普及活動に参加している。	町内会へ入り、地域の祭りや花見に参加し、ホームを理解してもらうとともに、当ホームも町内会の方がボランティアとして来訪、職員と町内代表の方の運営推進会議を行うなどの交流を図ったり、高齢者等の暮らしに役立つ寸劇隊を結成し活動を行っている。また、管理者はキャラバンメイトになるなど地域の認知症普及活動に参加している。	

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
3. 理念を実践するための制度の理解と活用			
5	<p>○評価の意義の理解と活用</p> <p>運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる</p>		
6	<p>○運営推進会議を活かした取り組み</p> <p>運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている</p>		
7	<p>○市町村との連携</p> <p>事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、運営や現場の実情等を積極的に伝える機会を作り、考え方や運営の実態を共有しながら、直面している運営やサービスの課題解決に向けて協議し、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる</p>		
8	<p>○権利擁護に関する制度の理解と活用</p> <p>管理者や職員は、地域権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している</p>		
9	<p>○虐待の防止の徹底</p> <p>管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないよう注意を払い、防止に努めている</p>	○	更に理解を深める事を目的とし、虐待防止委員会設置予定である。

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
4. 理念を実践するための体制			
10	○契約に関する説明と納得 契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている		
11	○運営に関する利用者意見の反映 利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている		
12	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々に合わせた報告をしている		
13	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている		
14	○運営に関する職員意見の反映 運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている		
15	○柔軟な対応に向けた勤務調整 利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている		

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
16 ○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	運営者や管理者、職員は担当職員の交代による利用者への影響に配慮し、配置換えを行っている。また、新しく担当する職員には詳細に引き継ぎを行っている。		
5. 人材の育成と支援			
17 ○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	年間の研修やユニット毎に企画した研修が作成されており、職員は個々の力量や経験に応じた研修を受けている。研修受講後は計画作成者によるOJT、伝達講習、レポートの提出しをしている。認知症ケア専門士スーパーバイザーがいる。		
18 ○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	管理者や職員は同業者の協議会やネットワークに加入する等、同業者との実践報告会やしないのGHの勉強会へ参加、同在宅介護支援センターとの交流連携の機会が確保されている。		
19 ○職員のストレス軽減に向けた取り組み 運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための良好な工夫や環境づくりに取り組んでいる	面談等の機会を設け、運営者や管理者は職員の悩みやストレスを聞いている。勤務希望を受入れたり、職員が組織する青空会に理解を示している。	○	今後も職員と面談し、勤務体制等の変更や業務改善を行う事で良好な職場環境を作っていきたい。
20 ○向上心を持って働き続けるための取り組み 運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている	運営者は現在の状況のほか職員の日々の努力や勤務状況等を把握している。年に2回健康診断の実施等、職員の心身の健康を保つ為の体制を整えている。また、各自が向上心を持つよう資格取得の支援をしている。		

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援			
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応			
21	○初期に築く本人、家族との信頼関係 相談から利用に至るまでに本人、家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	相談があった場合、利用希望者や家族と面談する等直接話しを聞く機会を設け介護保険制度・GHIの特徴をスライドを使って説明をし、相談を受ける際には利用希望者や家族との信頼関係を築く事を意識しながら対応をしている。必要な場合、自宅訪問している。	
22	○初期対応の見極めと支援 相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	相談時の利用希望者や家族のニーズに対しその時点で何が必要かを見極め対応できる事については柔軟に実行するよう努めている。	
23	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、職員や他の利用者、場の雰囲気に徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	利用者が安心してサービスを利用できるよう慣れるまで出来る限り特定の職員が関わり、好みの食事の提供、利用者が安心されるよう家族の宿泊もあり、初期は毎日のようにホームでの様子を電話連絡している。	
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援			
24	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	職員は利用者の喜怒哀楽を共感し、理解をするよう努めており利用者には得意分野で力を発揮してもらおう等、利用者と職員が共同しながら生活する事を大切にしている。	

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
25	○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている	利用者の様子や職員、家族の思いや気付きを共有し共に支えていく関係を作るよう、電話連絡や来訪時に落ち着いて話ができる環境作りに努めている。		
26	○本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している	職員は利用者と家族のこれまでの関係や双方の思いを把握するよう努めている。また、家族との関係が途切れないよう日々の利用者の様子を面会時や電話等で伝えたり、誕生会、新年会へお誘いし家族がホームへ来やすいよう支援している。		
27	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	家族との関係と同様に利用者がこれまで関わってきた人や馴染みの場所等の把握に努め、知人との電話連絡を取り持つなど必要に応じて利用者がこれまで関わってきた人との交流を継続できるよう支援している。		
28	○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている	仲の良し悪し等利用者の人間関係を把握し、利用者同士が共に助け合い支えあって暮らしていくことの大切さを理解し、活動・その人の落ち着くことの出来る居場所等を検討し、その確保に努めている。		
29	○関係を断ち切らない取り組み サービス利用（契約）が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている	サービス終了後も相談・面会の支援に応じる姿勢を利用者や家族へ示している。退去後にも面会や本人様の写真を送ったりしている。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント			
1. 一人ひとりの把握			
30	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	利用者の意向等が十分に把握できない場合、職員が利用者の視点に立って意向等を把握するよう努めたり、本人のことを良く知る家族や関係者から情報収集を行っている。	
31	○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	利用者の生活やライフスタイル、個性、価値観を把握し利用者のプライバシーに配慮しながら、利用者を良く知る親類などからも情報収集を行っている。	
32	○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている	利用者の1日の暮らし方や生活リズムが分かる24時間アセスメント用紙を使い（食事量や睡眠、排泄の時間、生活習慣1日の中でどの様な体調変化があるか等）を把握している。	
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し			
33	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	関わる職員の意見や気づきを基に職員間で十分話し合い作成し、必要に応じて家族や医師等利用者を良く知る人達の意見や要望を聞きながら、現在の本人の状態に合わせた介護計画を作成している。	
34	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	期間に関わらず利用者の身体状況の変化や利用者の家族等の希望の変化時には、随時見直しを行い、新たな計画を作成している。	

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
35	○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	一人ひとりについて、日々の暮らしの様子や身体状況等について、ケアプランに沿って記録している。また、個人の情報を職員が共有できるカードックスを整えたり、全体の情報は申し送りノートを利用し、介護計画の見直しに活かしている。		
3. 多機能性を活かした柔軟な支援				
36	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	医療連携体制をとっており、常勤の看護師を配置し、健康管理や職員の教育に取り組んでいる。また、家族や友人の面会時、必要に応じて送迎等も支援している。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働				
37	○地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している	地域の民生委員や、ボランティアに協力を呼びかけ利用者の意向に応じて、地域行事へ参加したり地域の活用が出来るよう働きかけを行っている。ボランティアによるフルート・ハーモニカ演奏がおこなわれたり、消防訓練の際に関係先へ協力を要請している。	○	今後もボランティアや地域資源を活用し、利用者が地域住民として活躍できるよう支援していきたい。
38	○他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている	訪問理美容の方がいらしたり、地域の美容院へ行かれたり本人の意向に応じている。他事業所のケアマネジャーやサービス事業者との交流を心がけている。		
39	○地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している	地域包括支援センター職員が運営推進会議や介護予防教室へ出席していただいております。本人の意向や必要性に応じて、権利擁護やケアマネジメント等活用できることについての情報交換に努めている。		

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
40 ○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	定期的な受診の他、体調不良や心配事のある時は、いつでも医療機関に気軽に相談する事ができ、通院方法や受診結果の伝達方法についても、利用者や家族の納得が得られている。		
41 ○認知症の専門医等の受診支援 専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している	認知症の専門医、利用者一人ひとりに応じた指示や、助言をしてくれる医師が確保できている。		
42 ○看護職との協働 利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている	利用者の普段の状態や、持病等を十分に把握している看護師の資格を持った職員を配置し、24時間いつでも気軽に相談する事が出来る。		
43 ○早期退院に向けた医療機関との協働 利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している	情報交換を密に行い本人の状況に応じて早期退院に向けた話し合いを家族と行う態勢が整えられている。退院後、ホームに戻られる際は介護計画を見直し、必要であれば計画を新しく作成している。		
44 ○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	終末期のあり方について、事業所として明確な方針を立てており、家族へも契約時に説明している。	○	実際に終末期を迎えた場合の家族と協働していいのか、家族の思いや考え方などに変化等に対応できる関わりの限界など、普段からの話し合いをしていきたい。
45 ○重度化や終末期に向けたチームでの支援 重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている	利用者や家族の意向を踏まえた上で、医療機関や家族との連携を図りながら、支援していく体制が整えられ職員へ研修を行い、看取りについて意見交換しており家族会でも報告している。。	○	事業所の「出来る事、出来ない事」職員の不安についての話し合いを重ねていきたい。

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
46	<p>○住み替え時の協働によるダメージの防止</p> <p>本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている</p>		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援			
1. その人らしい暮らしの支援			
(1)一人ひとりの尊重			
47	<p>○プライバシーの確保の徹底</p> <p>一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない</p>		
48	<p>○利用者の希望の表出や自己決定の支援</p> <p>本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている</p>		
49	<p>○日々のその人らしい暮らし</p> <p>職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している</p>		
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援			
50	<p>○身だしなみやおしゃれの支援</p> <p>その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている</p>		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
51	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、可能な場合は利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者の能力や意思等に応じて、調理の準備や後片付け等を促し、職員も一緒に行い、食事の際は常に一緒に席につき、食事を摂り利用者の好みや苦手なもの食べこぼしにも配慮している。旬の物や郷土料理を作り楽しむことができる。		
52	○本人の嗜好の支援 本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している	利用者の嗜好品の把握に努め、入居者の状態に配慮しながら、嗜好品を暮らしの中に取り入れている。誕生会や、敬老会、お正月に看護師と相談し、飲酒等も楽しんでいる。		
53	○気持ちよい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している	パターンに応じて、事前誘導を行う等、利用者の自立へ向けた支援をしている。排尿や便の確認は利用者の羞恥心やプライバシーに配慮しながら、他入居者へ気付かれない様にし、オムツ使用時期について何度も話し合い、安易にオムツへと変えていない。		
54	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	入浴を拒否する利用者へ対して、声掛けや対応を話し合い工夫をしており、利用者の習慣等に配慮しながらも、つかりすぎや洗身等に対して適切な支援をしている。		
55	○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している	外出や訪問者の有無等、その日の出来事や、体調に応じて、居室での昼寝や小上がりでの日向ぼっこをし休息を取り入れ、寝付けない入居者へ対して、付き添ったり、飲み物を提供する等している。		
(3)その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援				
56	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	利用者の生活や力量を、把握し利用者一人ひとりに合った、役割や楽しみごとを促す、働きかけをしている。掃除、裁縫、うた、将棋、俳句など支援している。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
57	○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	利用者の力量や希望、家族の希望等に配慮しながら利用者自らが金銭管理を行えるよう支援し、管理を行っていない利用者でも買物時には、支払いを行ってもらうなどしている。		
58	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	利用者の楽しみや、気分転換につながるよう希望や、習慣を取り入れ、利用者のその日の気分や、身体状況に合わせて、外出の際移動方法や移動距離に配慮した、支援を行っている。		
59	○普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している	日々の会話から利用者の行きたい場所を知っており、行きたい場所の希望が出され無ければ、職員の働きかけにより外出の機会を設ける様努めている。ドライブ、花見、外食、年に一度の日帰り旅行をしている。	○	利用者一人ひとりに特別な日を設け、一日を「その人の日」とするようなプランにも取組んでいきたい。
60	○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	利用者へくる電話や手紙を歓迎する等、利用者が家族や知人等に電話する際電話の操作介助、手紙を出しやすい雰囲気づくりをしており、会話の内容、手紙の内容が他の利用者には知られない様プライバシーに配慮している。		
61	○家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している	家族等の訪問時には居室以外にも過ごせる場所を確保しており、声掛けや日常の状態を話すなど、過ごしやすい雰囲気作りをし、昼食、夕食時と重なった時は、一緒に食事を摂っていただいている。宿泊の体制も整えている。		
(4)安心と安全を支える支援				
62	○身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	運営者及び職員は、身体的拘束の内容やその影響について研修をし理解しており、身体的拘束は行わない姿勢でケアをしている。業務マニュアルや方針、家族への説明、記録の取り決めがある。	○	更に理解を深める事を目的とし、委員会設置予定である。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
63	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	居室等、利用者が日常的に出入りする場所を施錠せず、チャイム、職員同士で所在確認をし利用者の外出傾向を察知した時には、職員が付き添う支援をしており地域の方の協力を依頼している。		
64	○利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している	職員は利用者を見守りやすい場所において、利用者の把握を行いヒヤリハットをケアプランに盛り込みリスクを予測し回避出来るよう職員同士で連携確認し安全に努めている。夜間は利用者の状態に応じて30分ごとの巡視をしている。		
65	○注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている	注意の必要な物品の保管場所や、方法について、具体的に取り決めがある。現金・内服薬・裁縫箱はスタッフルームにあるが手の届かないようにしている。		
66	○事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる	事故や、ヒヤリハットの事例は職員が、確認できる場所に保管、整理してあり、事故発生時には報告書を作成し、再発防止に向けて、ユニット会議で話し合っている。また、その内容を計画作成担当者会議でも話し合い記録を回覧している。今年の会社の目標も転倒防止として取り組んでいる。	○	事故が起こる前の対策を職員へ周知し安心して暮らせる環境整備に努めるよう、ヒヤリハット・事故防止検討委員会を設置し活動する予定。
67	○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている	職員は、応急手当や救命救急の研修を受講しており、夜間の対応を含めて、緊急マニュアルが作成されている。看護師より吐血について講習を受けている。		
68	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	日中だけでなく夜間も想定した、具体的な非難誘導策が作成され、職員と利用者が、定期的に非難訓練をし、災害時の対応について、住民や警察署、消防署から理解、協力が得られるよう運営推進会議で働きかけている。	○	消防訓練だけではなく、地震等の天災に対しても検討していきたい。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
69	○リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にしたい対応策を話し合っている	ヒヤリハットから利用者一人ひとりに起こり得る、リスクを把握すると共に、その対応策を家族等に説明し、起こり得るリスクの対応について、何度も話し合い、利用者の状況や家族の要望、変化によって見直しを行い介護計画を作成している。		
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援				
70	○体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている	変化や異変の兆候があった場合にはカードックスを参考に記録に残すと共に、職員で共有し必要に応じて、医療機関・医師・看護師へに相談する対応を行っている。		
71	○服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬の変更時は速やかにカードックスに記録、職員に周知してもらい、飲み忘れ誤飲が無い様支援し、服薬による状態変化時は記録に残し、看護師や家族・医師へ報告している。分包・服薬時はダブルチェックを行っている。		
72	○便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる	1日の食事や排泄、活動状況を見直し、自然排便を促す工夫を個別に行い、下剤を安易に使わない様散歩や栄養士より便通の良い食品について勉強し提供した。服薬は医療機関、看護師と相談し調整している。		
73	○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている	口腔内の洗浄や入れ歯の手入れを行い、声掛けや一緒に行う等、一人ひとりの能力に応じた支援や用具を準備している。家族の希望にて歯科にて歯石を取ってもらう方がいる。		
74	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	栄養士を招いて栄養に関する勉強会を行い、摂取カロリーや栄養バランスを考慮した献立を考え、必要に応じて食事や水分量の記録を残している。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
75	○感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している（インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等）	感染症の予防、（日頃から消毒・うがい・手洗いのポスター）早期発見、対応マニュアルが作成され、感染症に対して研修をし、情報を利用者や家族に手紙や口頭で話している。家族より同意を得てインフルエンザ予防接種をうけている。	○	マニュアル等の見直しも随時行う事とする。
76	○食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている	冷蔵庫の整理日、調理器具の消毒を業務へ盛り込みんでいる。また、ほぼ毎日のように買物へ行き新鮮な食材を使用するようにしている。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり				
(1)居心地のよい環境づくり				
77	○安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている	玄関前が地域の方の散歩コースとなっており、外出や散歩時挨拶している。プランターがあり、花を植えたり草刈など行い親しみやすく努めている。		
78	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	家庭的な雰囲気を保てるよう調度品を配置し、共用空間には窓を多く設け、換気、風景から生活感、季節感を感じられる様努めている。夏は扇風機・冬はこたつを置くなどしている。		
79	○共用空間における居場所づくり 共用空間の中には、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	共用空間は家庭的なつくりとし、気の合った入居者同士で、小上がりにて会話されている。中庭では入居者同士日向ぼっこや歌、踊りを楽しまれている。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
80	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好み のものを活かして、本人が居心地よく過 ごせるような工夫をしている	本人の馴染みのあるタンス・テレビ・布団な どを、持って来てもらう様家族に働きかけ、本人と 一緒に、一人ひとりにあった居室作りを心がけて いる。		
81	○換気・空調の配慮 気になるにおいや空気のだよみがないよ う換気に努め、温度調節は、外気温と大き な差がないよう配慮し、利用者の状況に応 じてこまめに行っている	天候や居室内の状況に応じて、窓を明け換気し ている。温度調節は空調、床暖等を状況に応 じて使い分けている。温室時計を使い管理日誌へ記録 している。		
82	○身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活 かして、安全かつできるだけ自立した生活が 送れるように工夫している	利用者の安全を考慮し、手摺りや流し台の高 さを建築時に検討している。利用者の身体状況の変 化に応じて、福祉用具を活用したり生活環境の改 善を行う体制が整えられている。		
83	○わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱 や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工 夫している	利用者一人ひとりの状態を把握すると共に、目 印の設置の必要性を見極め必要な場合には、個々 に合わせた表示をつける等の取り組みをしてい る。夜間トイレの明かりは点けたままにし表示も トイレとは書かず便所と記入している。また、カ レンダーも見やすいように手作りの日めくりカ レンダーを作った		
84	○建物の活用 建物を利用者が楽しんだり、活動でき るように活かしている	中庭があり、そこでは毎日のように外気浴され たり、ホールでは、えんぶり・新年会等の他、 日々、レク活動の場として使用している。		

( 部分は外部評価との共通評価項目です)

V. サービスの成果に関する項目		取 り 組 み の 成 果 (該当する箇所を○印で囲むこと)
項 目		
85	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	○ ①ほぼ全ての利用者の ②利用者の2/3くらいの ③利用者の1/3くらいの ④ほとんど掴んでいない
86	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	○ ①毎日ある ②数日に1回程度ある ③たまにある ④ほとんどない
87	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	○ ①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
88	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	○ ①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
89	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	○ ①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
90	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	○ ①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
91	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	○ ①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
92	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	○ ①ほぼ全ての家族と ②家族の2/3くらいと ③家族の1/3くらいと ④ほとんどできていない
93	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	○ ①ほぼ毎日のように ②数日に1回程度 ③たまに ④ほとんどない

項 目		取 り 組 み の 成 果 (該当する箇所を○印で囲むこと)
94	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている	○ ①大いに増えている ②少しずつ増えている ③あまり増えていない ④全くいない
95	職員は、生き活きと働けている	○ ①ほぼ全ての職員が ②職員の2/3くらいが ③職員の1/3くらいが ④ほとんどいない
96	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ ①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
97	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ ①ほぼ全ての家族等が ②家族等の2/3くらいが ③家族等の1/3くらいが ④ほとんどできていない

【特に力を入れている点・アピールしたい点】

(この欄は、日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入してください。)

・職員は理念を理解し日々ケアに取り組んでいる。 ・向上心を高める為資格取得に力を入れている。 ・内部、外部の研修へ参加している。 家族会を一年に一度開催している。 ・リスクマネジメントに取り組み、事故予防に努めている。 ・入居者と一緒に新年会を行っている。 入居者と一緒に小旅行を計画、年に一度旅行をしている。 ・認知症についての寸劇を行う寸劇隊を結成している。 ・当ホーム専属の看護師が24時間体制でいる。 ・(第一ユニット) 利用者と職員が共に生活する事を大切にしている。 春は花植えや花見をし、夏は花火、バーベキュー、迎え火、送り火をし、秋には畑で取れた野菜を収穫し、漬物や食材に利用している。 旅行へ出掛け普段とは違う気分を味わっている。 冬には入居者と一緒に新年会をしたり、餅つきや元朝参りをしケアが本人にとって馴染みのあり方(関わり方暮らしの支援、のあり方)か否かが、状態の安定や職員との関係づくりに大きく影響すると考えています。